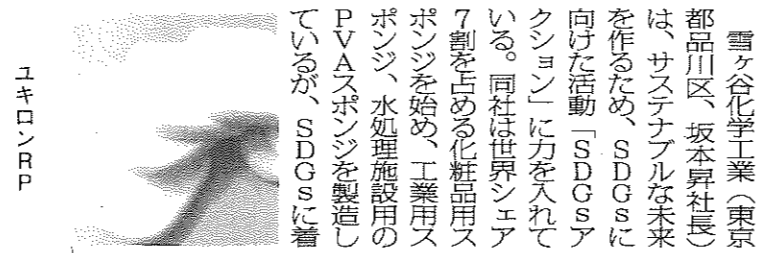


雪ケ谷化学、SDGsに力

NR配合化粧用パフを開発



雪ケ谷化学工業(東京都品川区、坂本昇社長)は、サステナブルな未来を作るため、SDGsに向けた活動「SDGsアクション」に力を入れている。同社は世界シェア7割を占める化粧品用スポンジを始め、工業用スポンジ、水処理施設用のPVAスポンジを製造しているが、SDGsに着目したのは2019年秋から。坂本社長が主導し、全社挙げてSDGsに向けた様々な活動を実施している。2030年までに達成すべき数値目標として、「CO2排出量の実質ゼロ」「再生可能原材料比50%」「廃棄物50%」「女性管理職50%」などを掲げ、その達成に向けアクションを始めている。

製品では、今年2月から「サステナブルスポンジシリーズ」として「NR-FT」「ユキロンRP」「ユキロンSQ-B」の販売を始めた。

化粧品用スポンジの原料は石油由来の合成ゴム(ニトリルゴム)が使われているが、「NR-FT」は、原材料に合成ゴムではなく、天然ゴム(NR)を使用。天然ゴムについても奴隷労働・児童労働がなく、公正な取引をしていることを確認する。フェアトレードの天然ゴムを100%使用している。フェアトレードは、コーヒー豆やコットンなどで見られる動きだが、「一般工業製品でフェアトレード認証を取得した製品はおそらくない」(坂本社長)と指

摘する。天然ゴムの調達先も坂本社長が現地タイの農園に出向いて確認した。

さらに、天然ゴムは独自技術により、天然ゴムラテックスアレルギーの原因となるタンパク質の除去にも成功。ラテックスアレルギーを持つ人でも安心して使用できる。

「ユキロンRP」は石油由来原料の合成ゴムに天然由来成分を10〜90%配合したパフ。ユキロンRPについて坂本社長は「当社独自の配合技術により、石油由来合成ゴムの配合量を自由に交えられるので、耐油性や耐久性など顧客の仕様に合わせた配合比率で製品化ができる」と強調する。

そのほか、「ユキロンSQ-B」は、持続可能なサトウキビ由来のポタニカルスクワランを配合したパフ。従来用いていたサメの肝油を使用しておらず、海洋生態系への負担軽減にも貢献する製品としている。

なお、同社は調達した天然ゴムがフェアトレードであることを証明する「フェアトレード天然ゴムマーク」を作成し、今年5月より公開を開始した。同マークは自社製の天然ゴム製スポンジに表示している。

また、この趣旨に賛同する企業などにもマーク使用を呼びかけ、「江北大島製作所や錦城護謨などのゴム企業様も当社の活動に協力していただいている」とし、「SDGs(7.クリーンエネルギー)を掲げ合わせた中小企業のモデルケースになりたい」(坂

本社長)と今後の展望を話す。

取材 Memo

今のSDGsは ネット黎明期

「SDGsの現状は インターネット黎明期に近い」と語るのは化粧品用スポンジや工業用スポンジなどを製造する雪ケ谷化学工業の坂本昇社長。坂本社長がSDGsに着目したのは2019年秋頃から。坂本社長が中心役となり、SDGsに向けた様々なアクションに力を入れる。

その一環として今年2月からはフェアトレードの天然ゴムを100%使用した化粧品用スポンジ(パフ)や石油由来の合成ゴムの使用を10〜90%削減できるパフなどをサステナブルスポンジシリーズの発売を開始しており、「顧客からの反響も上々だ」(坂本社長)。

同社は1952年の創業以来、石油由来成分のゴムやプラスチックなどを原料とした製品を市場へ供給してきたが、今後は石油由来を減らした

製品を出しながら成長を目指す。

坂本社長は「会社には様々な課題があるけど、頭の中はSDGsでいっぱい」とも。世界的にはコロナ禍からの経済復興はSDGsをターゲットに様々な資金や補助金が投入されるなか、SDGsをキーワードにした製品が今後勃興すると見て、坂本社長は「世の中も自然環境を意識し、多少割高でも購入する」という流れに変わりを始めているし、当社もその流れを見逃さず波に乗りたい」と前を向く。